

ワンショット代数的効果から 非対称コルーチンへの変換

河原 悟, 亀山 幸義

PRO2019-01

June 6, 2019

ワンショット代数的効果から 非対称コルーチンへの変換

背景

コルーチン

コルーチンの合成性

代数的効果

研究

操作の対応

実装

応用

まとめと課題

変換

関連研究

対称コルーチンと非対称コ

ルーチン

ワンショット継続とコルーチ

ンの複製

背景

コルーチン

- 😊 様々な言語が持っている
Lua, Ruby, C#, Kotlin, etc.
- 😊 強力なコントロール抽象
async/await、イテレーション、etc.

😓 **合成性** (composability) に欠ける

背景

代数的効果

- 😊 インターフェースと実装を分離できる
モジュール性、合成性が高い
- 😊 いくつかのコントロール抽象との関係が知られている
代数的効果 \mapsto 限定継続
代数的効果 \mapsto Free モナド
- 🤔 コルーチンにも落とし込めないだろうか？

研究

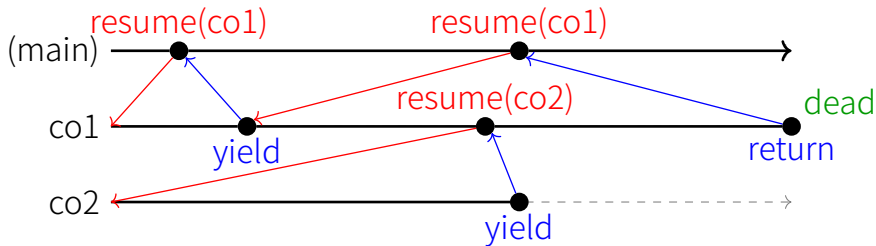
- 目的: コルーチンを持つ言語でも
もっと合成性の高いコントロール抽象を使いたい
- 手段: 代数的効果をコルーチンに落とし込む
- 内容: 代数的効果からコルーチンへの変換
代数的効果とコルーチンの操作を対応づける

コルーチン

一時停止、リジュームのできるサブルーチン

▶ 非対称コルーチン

呼び出し (`resume`)、リジューム元に戻る (`yield`)

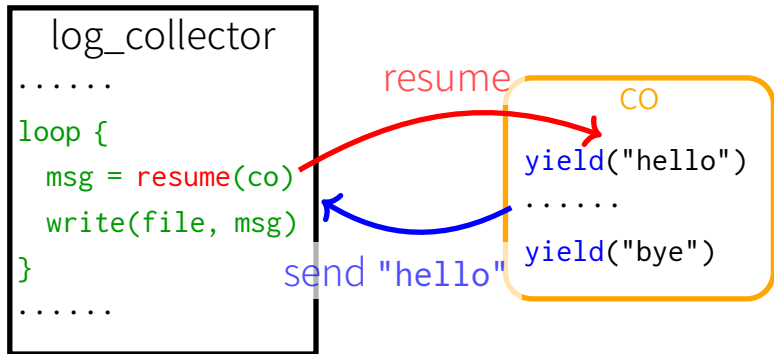


▶ 対称コルーチン

`resume` のみ

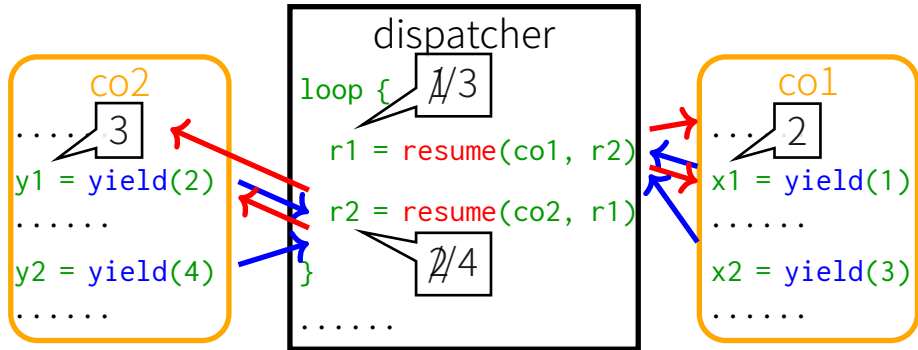
コルーチン

e.g.) ログの送信/収集



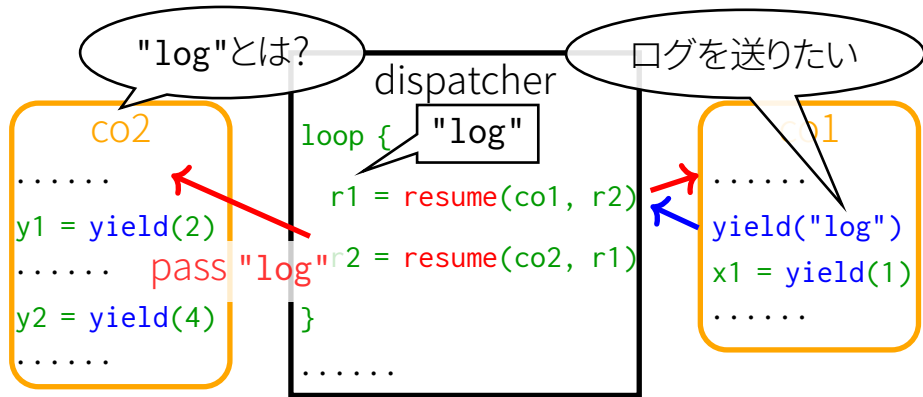
コルーチン

e.g.) スレッド間の値の受け渡し



コルーチンの合成性

ログの送受信 + スレッド間の値の受け渡し ……?



コルーチンの合成性

😞 すぐに合成できない!!

異なる使い方の `yield` と `resume` を
1つのコルーチンで利用できない

- ▶ `yield` の引数にタグを付けて
- ▶ `resume` が受け取ってタグで処理を分岐して
- ▶ etc.

工夫が必要

代数的効果

計算エフェクト (I/O, 例外, etc.) を扱う言語機能

- ▶ 圏論に基づき発展、理論や実用面でホットな分野
- ▶ 高レベルなエフェクト抽象
- ▶ 例外処理のようにエフェクトの発生をハンドル
- ▶ 継続 (コントロールの状態) を同時に取得

⇒ エフェクト抽象+ハンドラにより、
モジュール性+合成性の高いプログラミングが可能

代数的効果

e.g.) ログの送信/収集

```
effect Log : string -> unit
```

Logエフェクトを定義

```
let task () =  
  perform (Log "hello");
```

エフェクトの発生

```
  .....  
  perform (Log "bye")
```

```
let log_collector task =  
  handle task () with
```

エフェクトの捕捉

```
  | x -> x
```

継続も取得

```
  | effect (Log msg) k ->
```

```
    write file msg; k ()
```

コントロールを戻す

代数的効果

e.g.) スレッド間の値の受け渡し

Sendエフェクトを定義

```
effect Send : (int * int) -> int
```

taskをハンドル

```
let dispatcher init task1 task2 =  
  let rec tasks = [| (fun _ -> go task1);  
                    (fun _ -> go task2) |]  
  and go task =
```

```
  handle
```

インデックス、値、継続を取得

```
  | x -> x
```

```
  | effect (Send (idx, x)
```

継続を保存

```
    tasks[idx] := k;
```

```
    tasks[(idx + 1) % 2] x
```

他方のタスクを再開

```
in go task1
```

代数的効果

ログの送受信 + スレッド間の値の受け渡し

```
let co1 init =  
  .....  
  perform (Log "msg");  
  let x1 = perform (Send(0, 1)) in  
  .....
```

ログも送る、値も渡す

```
let co2 init =  
  .....  
  let y1 = perform (Send(1, 2)) in  
  .....  
  let y2 = perform (Send(1, 4)) in  
  .....
```

代数的効果

ログの送受信 + スレッド間の値の受け渡し 😎

dispatcher にハンドルされた状態
でコントロールを戻せる

```
log_collector (fun () ->  
  dispatcher 0 co1 co2)
```

Logエフェクトは素通し

😊 合成が非常に簡単!

研究目的

非対称コルーチンを持つ言語でも、
もっと合成性の高いコントロール抽象を使いたい

代数的効果

非対称
コルーチン

合成性 OK!

合成性が……



操作の対応

代数的効果 \mapsto 非対称コルーチン

エフェクトの発生 \mapsto yield

エフェクトのハンドル \mapsto resume

ハンドルされる式 \mapsto コルーチン

継続 \mapsto コルーチン

操作の対応

代数的効果	↪	非対称コルーチン
エフェクトの発生	↪	yield
何回も呼び出せる	↪	コピーできない
ハンドルされる式	↪	コルーチン
継続	↪	コルーチン



継続の実行を**ワンショットに限定**することで
操作を正しく対応付けられる!

研究

✓ 変換を定義

$\lambda_{\text{eff}} \mapsto \lambda_{\text{ac}}$

ワンショット

代数的効果

\mapsto 非対称コルーチン

エフェクトの発生

\mapsto

yield

エフェクトのハンドル

\mapsto

resume

ハンドルされる式

\mapsto

コルーチン


ワンショットの継続

\mapsto

コルーチン

実装

変換結果に基づきワンショット代数的効果ライブラリを実装

 <https://github.com/Nymphium/eff.lua>

▶ Lua 言語で実装

第一級関数、非対称コルーチンが標準ライブラリ

▶ 代数的効果の応用例で動作を確認

Multicore OCaml のチュートリアル^{*1}を実装

- Same Fringe 問題
- generator
- async/await
- state



^{*1} <https://github.com/ocaml-labs/ocaml-effects-tutorial>

応用

ライブラリを読み込むだけで利用可能

```
local Send = inst()
local Log = inst()

local co1 = function(init)
  .....
  perform(Log("msg"))
  local x1 = perform(Send(1, 10))
  .....
end
```

応用

Lua の table を用いてハンドラを直感的に定義可能

```
local log_collector = function(task)
  return handlers({
    function(x) return x end,
    [Log] = function(k, msg)
      write_to(log_file, msg)
      return k()
    end
  })(task)
end
```

まとめと課題

- 👤 ワンショット代数的効果から非対称コルーチンへの変換を定義した
合成性の高いコントロール抽象が使える!
- 👤 変換の結果に基づき、ワンショット代数的効果のライブラリを実装した
Lua で代数的効果が使える!
- ? 継続のワンショット性
 - λ_{eff} が継続を 2 回以上実行しないことを *affine* 型を用いた型システムで静的に検査
 - 変換が継続の実行回数を変えないことの証明

変換

```
 $x \in \text{Variables}$   
 $\text{eff} \in \text{Effects}$   
 $v ::= x \mid h \mid \lambda x.e \mid \text{perform } \text{eff } v$   
 $e ::= v \mid v v \mid \text{let } x = e \text{ in } e$   
       $\mid \text{inst } () \mid \text{with } v \text{ handle } e$   
 $h ::= \text{handler } v \text{ (val } x \rightarrow e) ((x, k) \rightarrow e)$ 
```

Figure: λ_{eff} の構文

```
 $x \in \text{Variables}$   
 $K \in \{\text{Eff}, \text{Resend}\}$   
 $\text{eff} \in \text{Effects}$   
 $v ::= x \mid \lambda x.e$   
 $e ::= v \mid e e \mid \text{let } x = e \text{ in } e \mid \text{inst } ()$   
       $\mid \text{match } e \text{ with } \overline{\text{case}} e$   
       $\mid \text{create } e \mid \text{resume } e e \mid \text{yield } e$   
 $\text{case} ::= K \vec{x} \rightarrow e \mid K \vec{x} \text{ when } e = e \rightarrow e$   
 $\text{letrec} ::= \text{let rec } f \vec{x} = e \text{ mutrec}$   
 $\text{mutrec} ::= \text{and } f \vec{x} = e \mid \text{in } e$ 
```

Figure: λ_{ac} の構文

変換

```
[[handler eff (val x → e_v) ((x, k) → e_eff)]η =  
  
  let rec handler eff vh effh th =  
  
    let co = create th in  
  
    let rec handle r =  
  
      match r with  
  
      (1) | Eff eff' v           when eff' = eff → effh v continue  
      (2) | Eff - -              → yield (Resend r continue)  
      (3) | Resend (Eff eff' v) k when eff' = eff → effh v (rehandle k)  
      (4) | Resend effv k        → yield (Resend effv (rehandle k))  
      (5) | -                    → vh r  
  
      and continue arg = handle (resume co arg)  
  
      and rehandle k arg = handler eff continue effh (λ_.k arg)  
  
      in continue c // c is anything to run coroutine at first, like nil, (), etc.  
  
in  
  
let eff = [[eff]]η in  
  
let vh = λx'.[[e_v]]η[x ↦ x'] in  
  
let effh = λx' k'.[[e_eff]]η[x ↦ x', k ↦ k'] in  
  
handler eff vh effh
```

```
[[x]]η = η(x)  
[[eff]]η = eff  
[[λx.e]]η = λx'.[[e]]η[x ↦ x']  
[[let x = e in e']]η = let x' = [[e]]η in [[e']]η[x ↦ x']  
[[v1 v2]]η = ([[v1]]η) ([[v2]]η)  
[[inst ()]]η = inst ()  
[[perform eff v]]η = yield (Eff ([[eff]]η) ([[v]]η))  
[[with h handle e]]η = [[h]]η (λ_.[[e]]η)
```

Figure: λ_{eff} から λ_{ac} への変換

関連研究

変換対象	実装	変換の定義
限定継続	○	○
Free モナド	○	○
非対称コルーチン	○	X

▶ 非対称コルーチンによる実装の利点

- さまざまな言語で実装可能
非対称コルーチンを持つ言語は多い、増えている
- 代数的効果のイディオムをそのまま使える

対称コルーチンと 非対称コルーチン

▶ 対称コルーチン

- Modula-2, Win32API, Ruby, etc.
- コントロールを移す先を常に明示
- 構造化プログラミングと相性が悪い

▶ 非対称コルーチン

- 現在“コルーチン”と呼ばれる機能は主にこちら
- 対称コルーチンをエミュレーション可能
- 非同期プログラミングやコールバック地獄の解消などでも活躍

ワンショット継続と コルーチンの複製

- ▶ **ワンショット継続は軽い**
いくつかのアプリケーションでの継続の実行は高々1回
コールスタックなどの複製を抑えることができ、実行効率のアドバンテージ
- ▶ **コルーチンの複製操作は重い**
スタック、レジスタ、ip、etc. を複製
軽量スレッドとしてのコルーチンとは相性が悪い
内部では非対称コルーチンを使用している
Multicore OCaml は継続の複製操作を持つ